

## 消費者動向調査 No.98

# テーマ「夏のボーナス使いみち調査」

調査時期 平成 18 年 5 月

◆調査対象 福岡県内のボーナスがある家庭の主婦 500 人  
(うち回答者 478 人、回答率 95.6%)

回答者区分

A.年代

	%
20代	8.6
30代	19.9
40代	37.2
50代	26.1
60代	8.2

B.あなたのご家庭で

ボーナスがあるのは

	%
夫だけ	45.9
妻だけ	12.6
両方	41.5

西日本シティ銀行

## [ 調査結果本文 ]

最近の調査によると、景気は緩やかながらも回復基調が続いているとの見方が多いようです。また、昨年からは雇用・所得環境の改善が進み、景気回復の恩恵が家計部門に波及してきたともいわれています。ただ一方で、原油価格の高騰や円高など、先行きには気掛かりな材料があることも確かです。

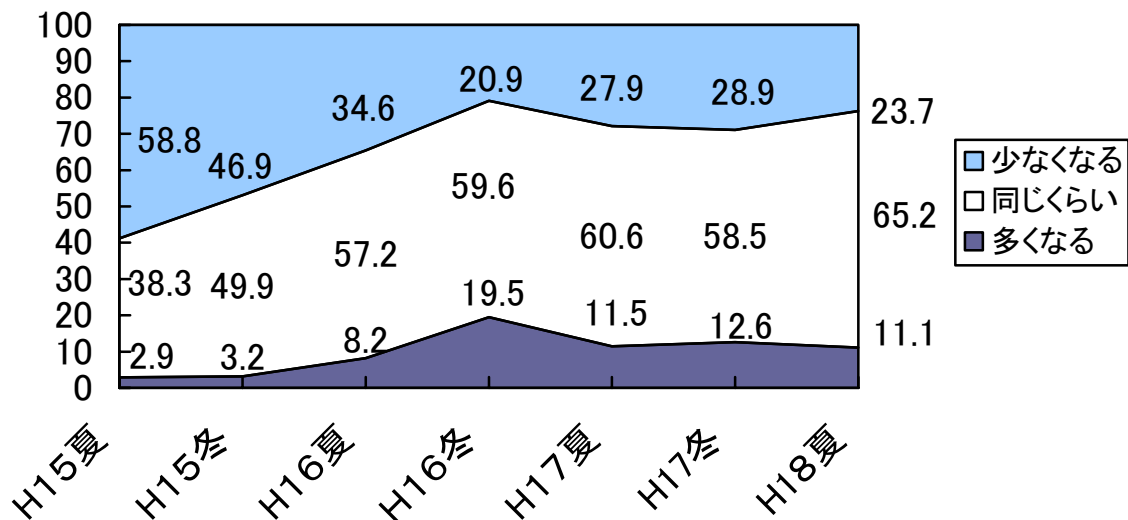
このような環境の中、消費者はこの夏のボーナス受給額をどのように予想し、どのように消費しようと考えているのでしょうか。また、夏のボーナスの使いみちについて、これまでと違った傾向は表れつつあるのでしょうか。ボーナス受給を間近にひかえ、福岡県在住の主婦を対象に夏のボーナスについての消費動向をたずねました。

### 今年の夏のボーナス、昨年夏と比較して“少なくなる”が 4.2 ポイント減少、全体的に回復基調は維持している。

今回の調査で、夏のボーナスが“昨年より少なくなる”と予想する割合が 4.2 ポイント減少し、底打ち感がみられた。“昨年より多くなる”も 0.4 ポイントの微減となったが、ここ数年の緩やかな回復基調は維持しているといえる。

[グラフ 1：夏のボーナスは昨年に比べどうなると予想していますか]

(単位：%)



**夏のボーナスの使いみち予定は今回も「預・貯金」がトップ。「家計補充」「子供の教育費」が2位と3位。**

夏のボ - ナスの支出予定トップは今回も「預・貯金」で、消費者の貯蓄意識は依然として強いが、昨年夏と比較すると2.5ポイント減少した。「子供の教育費」が6.9ポイントの増加。「旅行・レジャー」は比較的堅調に推移している。

[表1：夏のボーナスは何に使う予定ですか（3つまで）]（単位：％）

項目	全体
預・貯金	46.2
家計補充	37.2
子供の教育費	34.5
旅行・レジャー	32.4
住宅ローンの返済	27.6
衣料品等の購入	21.8
お中元	19.7
自動車	13.2
耐久消費財の購入	9.4
両親・子供への小遣い	9.4
クレジットの返済	6.5
その他	13.0

[表2：夏のボーナスは何に使う予定ですか（時系列比較）]（単位：％）

	H15 夏	H16 夏	H17 夏	H18 夏
預・貯金	44.1	48.6	48.7	<b>46.2</b>
家計補充	34.3	33.4	34.9	<b>37.2</b>
子供の教育費	25.9	28.7	27.6	<b>34.5</b>
旅行・レジャー	28.8	34.8	32.6	<b>32.4</b>
住宅ローン返済	34.8	32.2	28.5	<b>27.6</b>
衣料品の購入	21.4	23.2	22.6	<b>21.8</b>

## ◆夏のボーナス受給後の消費マインドは緩やかながら着実に改善！

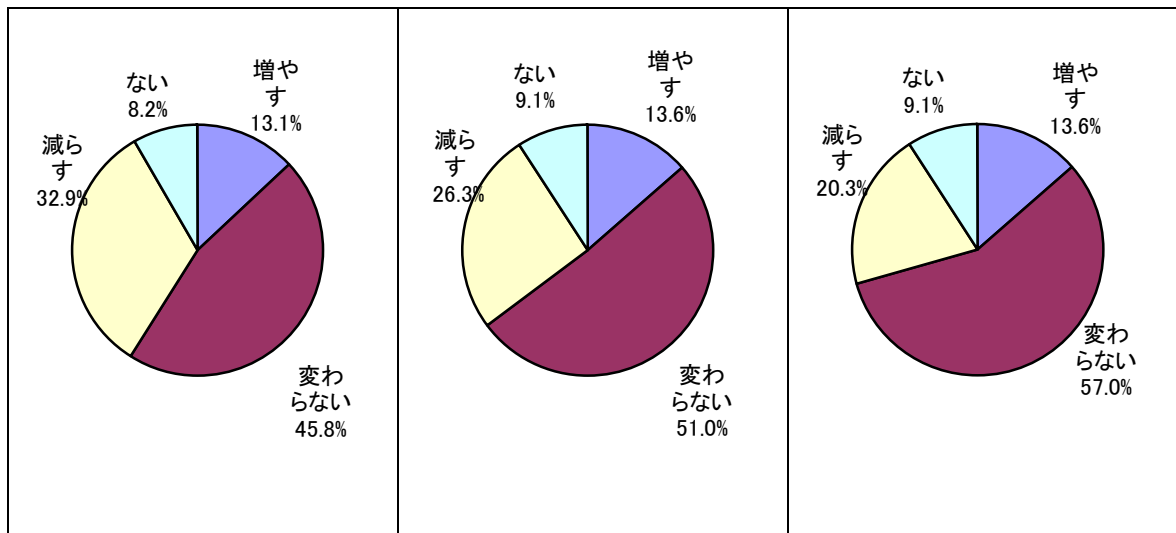
ボ - ナス受給後の「消費」については、“増やす”は横ばい。“変わらない”が 6.0 ポイント増加し、“減らす”は 6.0 ポイント減少しており、消費マインドも緩やかながら着実に改善していることがうかがえる。

[グラフ 2 : ボーナスによる支出のうち、消費にまわす割合はどうかと考えるか]

(平成 16 年 夏)

(平成 17 年 夏)

(平成 18 年 夏)



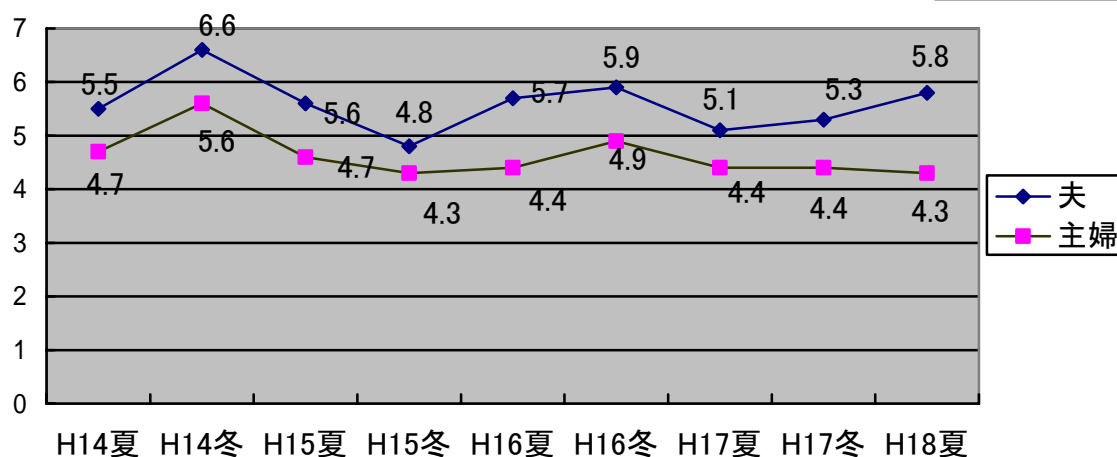
◆ 夏のボーナス、自由に使える金額は、主婦は4.3万円とほぼ横ばいが続いているが、夫は5.8万円に上昇。

主婦が自由に使える金額は平均4.3万円（昨年冬比0.1万円）に若干ダウンしたが、夫が自由に使える金額は平均5.8万円（昨年冬比+0.5万円）にアップし、夫が自由に使えるお小遣いは上昇傾向にあるようだ。

[グラフ3：自由に使える金額はどれくらいですか]

(単位:万円)

〈ピーク〉  
夫：9.3万円(H9)  
主婦：7.9万円(同)



[表3：主婦と夫が自由に使える額]

(単位：%)

	主婦	夫
1万円未満	18.1	8.8
1～3万円未満	33.2	24.1
3～5万円未満	26.3	32.2
5～10万円未満	14.1	21.9
10～20万円未満	6.5	9.8
20～30万円未満	1.5	2.6
30～40万円未満	0.0	0.2
40～50万円未満	0.2	0.0
50万円以上	0.2	0.4
平均	4.3万円	5.8万円

## 主婦が今後お金をかけたいこと……「貯蓄」が過半数でトップ 続いて、2位「旅行・レジャー」、3位「子供の教育」の順。

主婦が今後お金をかけたいことは1位「貯蓄」、2位「旅行・レジャー」、3位「子供の教育」。将来の備えに対する意識が強い反面、「旅行・レジャー」を楽しみたいという希望ももっている。

[表 4：今後あなたがお金をかけたいことは何ですか（2つまで）]（単位：%）

項目	全体
貯蓄	53.6
旅行・レジャー	39.1
子供の教育	29.1
自分や家族の健康作り	19.9
住宅	17.6
趣味・習い事	7.7
美容・ファッション	6.9
勉強・資格取得	6.7
保険	3.3
食べること	2.9
その他	5.0

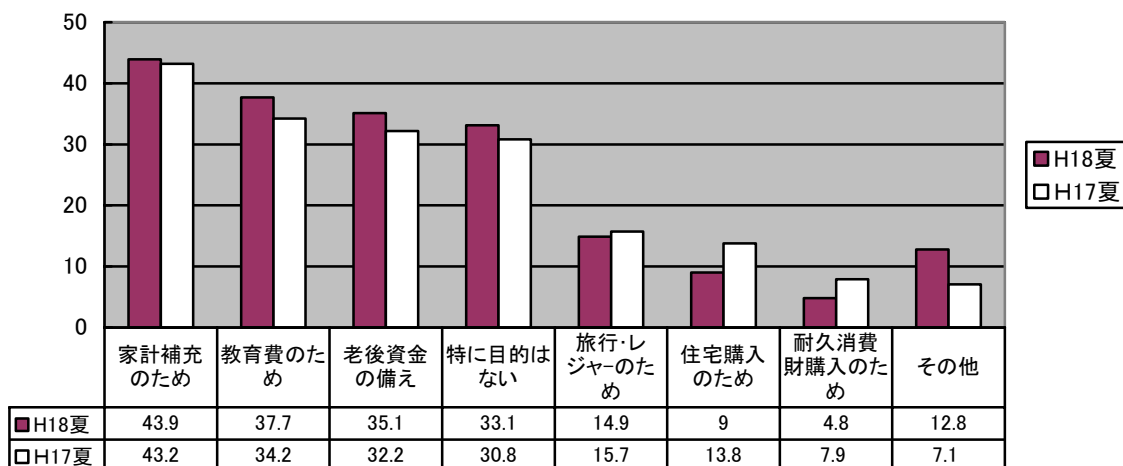
## 夏のボーナスの貯蓄、その目的は“家計補充のため”がトップ。

“夏のボ - ナス貯蓄の目的は何か？”の問いには、“将来の家計補充”が昨年に続きトップという結果となった。景気は緩やかな回復基調であるものの、将来への備えとして、家計補充、教育費、老後資金を貯蓄目的とする人が多いようだ。

年代別にみると50代が“将来の家計補充”“老後の備え”の2項目で過半数を超えているのが、他の世代に比べて特徴的であり、年金問題など老後の不安が顕著に表れている。

[グラフ4：将来の何のために夏のボーナスを貯蓄しますか（2つまで）]

（単位：％）



[表5：将来の何のために夏のボーナスを貯蓄しますか（年代別）]

（単位：％）

	全体	20代	30代	40代	50代	60代
家計補充のため	43.9	36.6	49.5	40.4	50.4	33.3
教育費のため	37.7	53.7	53.7	52.8	10.4	0.0
老後資金の備え	35.1	0.0	11.6	30.3	62.4	64.1
特に目的はない	33.1	29.3	27.4	36.0	31.2	43.6
旅行・レジャーのため	14.9	12.2	17.9	11.2	16.0	23.1
住宅購入のため	9.0	36.6	14.7	6.2	2.4	0.0
耐久消費財購入のため	4.8	2.4	4.2	5.6	5.6	2.6
その他	12.8	19.5	13.7	8.4	12.0	25.6

夏のボーナスを貯蓄する際、参考にするものは「金融機関の店頭での説明」が過半数でトップ！2位は「新聞・雑誌」、3位は「インターネット」。

主婦が夏のボーナスを貯蓄する際、参考にするものは「金融機関の店頭での説明」が過半数でトップとなった。やはり店頭で顔を合わせての説明が最も参考になるようだ。続いて2位は「新聞・雑誌」で約3割、3位は「インターネット」で、約2割の人が参考に行っている。

[表6：夏のボーナスを貯蓄する際、参考にするものは何ですか(2つまで)](単位：%)

項目	全体
金融機関の店頭での説明	50.4
新聞・雑誌	28.5
インターネット	18.4
ポスター・チラシ等	18.2
テレビCM等	12.3
その他	34.1



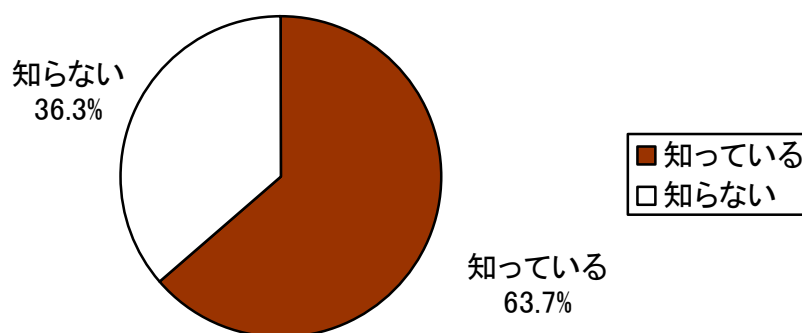
## 特別調査結果

3月から4月にかけて、金融機関が定期預金や住宅ローンなどの金利引き上げを実施したが、金利の上昇を消費者はどう受けとめているのか、家計への影響を含めて調査した。

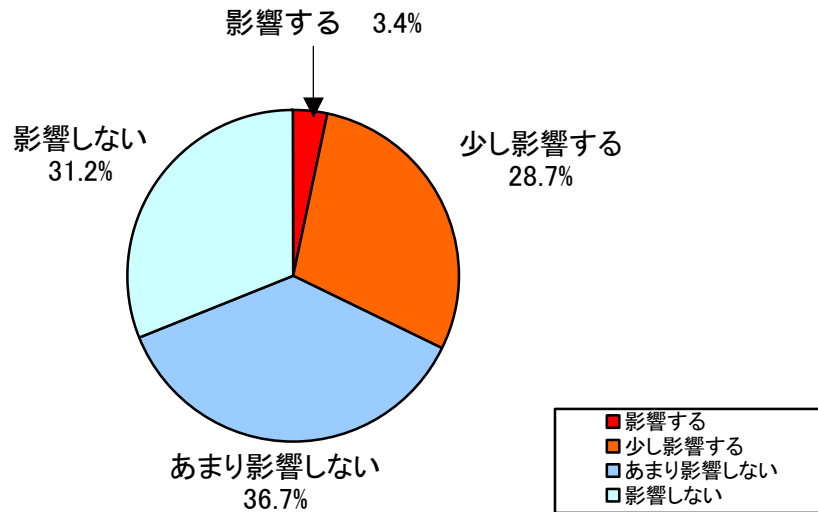
預貯金金利の引き上げについては63.7%の人が「知っている」と回答したものの、3分の1以上が知らなかった。また、金利の引き上げがボーナスの貯蓄意欲に「影響する」と回答した人は3.4%、「少し影響する」を合わせても3分の1強で、全体的な貯蓄意欲の向上につながるほどの影響は見られなかった。

また、金利上昇は「家計にマイナスになる」と感じている人が、「家計にプラスになる」と感じている人を大きく上回っており、住宅ローンなどローン金利の上昇の方が家計に与える影響が大きいようだ。

[グラフ5：3月から4月にかけて、銀行や郵便局などが預貯金金利の引き上げを実施したことをご存知ですか]（単位：％）



[グラフ6：預貯金金利の上昇は、ボーナスの貯蓄意欲に影響しますか]（単位：％）



[表7：金利の上昇は家計にどう影響してくると思いますか]（単位：％）

家計にプラスになる	3.4
家計にマイナスになる	28.7
影響はほとんどない	36.7
わからない	31.2

以上

この調査に関するお問い合わせは  
西日本シティ銀行 広報部 安野 まで  
TEL 092-461-1869